



ARTIST SUPPORT

演奏家の活動をご支援いただくアーティストサポートに、
これまで多くのサポーターの皆様からお気持ちをお寄せいただいたことに、
心から感謝申し上げます。

「人のいるところには夢がある。」創業47年来のジャパン・アーツのモットーです。
どんな時代においても、音楽・舞台芸術、そしてそこから生まれる感動は、
人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。

アーティストサポートに寄せられたご支援は、アーティストの活動再開や、
安心・安全なコンサートの実現に幅広く使わせていただきます。
これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホーム・ページに
掲載しておりますので、どうぞご覧ください。



この度、ご芳名リストを一新させていただきました。
今年度も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願ひします。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

YI	T.K	高仲 裕樹	N.H
NI	加藤 正博	高橋 仁子	M.H
TI	河村 はるみ	武山 健自	M.H
石塚 美佳	北瀬 喜樹	伊達 朱美	松田 香
石橋 友佳子	木村 ひとみ	土屋 涼子	三澤 健司
井上 友美	木村 美明	寺田 美佐	三橋 祐太
今井 良成	河野 みえ	トゥループ 真智子	百足 由美
植原 由起子	A.K	長澤 紀子	村岡 柚香
内田 さおり	小室 秀夫	中島 和	Y.Y
K.O	斎田 孝	中野 和枝	渡邊 玲子
S.O	T.S	中村 尚義	株式会社MARUWA
岡戸 規子	N.S	中村 美穂	株式会社
Y.O	C.S	七澤 聡子	ソーシャルキャピタル
小田島 容子	新貝 康司	K.N	マネジメント
A.O	N.S	原田 桃代	日本パデレフスキ協会
片山 由美子	M.S	楡作 美穂子	淡路

【匿名希望:51名】

2022年4月1日～9月21日現在 ※五十音順 匿名希望の方は記載していません。

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00～17:00 年末年始を除く)

アフタヌーン・コンサート・シリーズ 2022-2023

Afternoon Concert Series



©Satoru Mitsuta

千住真理子

Mariko Senju & Izumi Tateno

& 舘野泉

デュオ・リサイタル

Duo Recital

©Kiyotaka Saito (SCOPE)

2022年10月4日(火) 13:30開演

東京オペラシティ コンサートホール

主催: ジャパン・アーツ



JAPAN ARTS



J.S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番より

第1楽章 アルマンド、第5楽章 シャコンヌ

久保 禎：左手の祈り（館野泉に捧ぐ／「館野泉左手の文庫」助成作品）

梶谷 修：土曜日の森（館野泉に捧ぐ）



梶谷 修：風に、波に、鳥に・・・

梶谷 修：赤とんぼ（原曲：山田耕筰）

久保 禎：「5つの風景画」より

（館野泉&ヤンネ館野に捧ぐ／「館野泉左手の文庫」助成作品）

《串木野さのさ》による

山川町利永《琉球人踊》による

J.S. バッハ（光永浩一郎 編）：G線上のアリア

J. マスネ（光永浩一郎 編）：タイスの瞑想曲

G. フォーレ（光永浩一郎 編）：夢のあとに

谷川賢作：「スケッチ・オブ・ジャズ2」より

（館野泉&ヤンネ館野に捧ぐ／「館野泉左手の文庫」助成作品）

ア・ソング・アフター・ダーク

レイジー・スーザンズ・ワルツ

オールド・グランパズ・シンプル・ジョーク



2021年1月、サルビアホールにて

憧れの館野泉先生とのスペシャルなデュオ・リサイタルが、今日アフタヌーン・コンサートで実現する。待ちに待ったワクワクする日。

尊敬する館野泉先生の音楽は、私を柔らかな無限大の音世界に誘ってくれる。

ピアノで奏でる語りかけに、なんとお答えしよう。今日、この瞬間にしか起こらないステキな音の会話を、皆様も一緒に体感していただきたい。

千住真理子

穏やかな秋の日の午後、これまでも一緒に演奏させていただいた名曲の数々が東京オペラシティコンサートホールの広々とした空間に立ち上っていくのを思い浮かべると、とても幸せな気持ちになる。意気込んでいるのではなく、86歳まで生きてきて、またいい音楽が演奏出来るという静かで穏やかな喜びであろう。

私がひとりで演奏する久保禎の「左手の祈り」には静かに澄みきった秋の日の大気の煌めきが、そして梶谷修の「土曜日の森」には豊かに変容する光の躍動がある。

皆様に聴いて頂けるのを楽しみにしている。

館野 泉



J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番より

第1楽章 アルマンド、第5楽章 シャコンヌ

J.S.バッハは、ヴァイオリン演奏の限界に挑むかのような『無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ』(全6曲)を作曲したが、中でもパルティータ第2番の最後におかれた長大なシャコンヌは、深い精神性と豊かな幻想性をそなえ、バッハの芸術の最高峰に位置する作品のひとつである。シャコンヌとは古い舞曲のひとつで、その形式は短い低音の和声定型を何度も繰り返しながら、その各々の繰り返しのうえに変奏を築きあげていくもの。バッハは4小節の定型をもとに、いまだかつてない壮麗・雄大なシャコンヌをつくりあげた。ヴァイオリンはおよそ管弦楽にも匹敵するような響きの豊かさと変化を要求される。この類稀な傑作は、後世の数多くの作曲家を魅了し、ブゾーニやストコフスキー、シューマンなどによって様々な編曲が生み出された。ブラームによって左手のための編曲があるが、その作品について、館野氏は「弾いていると精神が研ぎ澄まされて、身体がそれに動かされていくのを感じる」と述べている。

久保 禎:左手の祈り(館野泉に捧ぐ/「館野泉左手の文庫」助成作品)

館野さんから「左手のためのピアノ作品を書きませんか?」とお言葉を頂いたのは2014年6月。感激しつつお受けしたものの、私自身が病に倒れてしまい、しばらく作曲活動から離れざるをえなくなりました。病床の中、そしてリハビリの時に心の支えとなったのが館野さんの力強くも自然体の温かなメッセージでした。その生きざまは、何よりの励ましであり、救いでした。その時の感謝の想いが綴られています。2019年3月に東京で初演。「芸術文化にとって大切なことは偉大な遺産の継承と新たな未来の創造」という館野さんの若い頃からの変わらぬ信念と矜持に心から敬意を表する次第です。(久保 禎)

梶谷 修:土曜日の森(館野泉に捧ぐ)

冬からはじまり、雪解け…季節の循環を表している。(梶谷 修)

梶谷 修:風に、波に、鳥に…

物語「風の電話」は東日本大震災の実話。

あの日、突然の別れが何万人をも襲った。岩手県大槻町の海を見下ろす丘には今も電話線の無い、心で話す電話ボックスが佇んでいる。残されたある人は、ここで、風に語り…波に尋ね…鳥に願う…そしてゆっくりと受話器を持つのだ。

梶谷 修:赤とんぼ(原曲:山田耕筰)

1926年(大正15年)から翌年にかけて、山田耕筰は100曲の童謡を作曲し、それらを「童謡百曲集」として出版した。今日、国民的愛唱歌として親しまれている〈赤とんぼ〉は、〈この道〉や〈あわて床屋〉などとともに、この曲集の中の一曲として発表されたものである。童謡でありながら大人にとっても幼い頃への郷愁をさそうこの名歌が、梶谷修により左手の名曲として生まれ変わった。

久保 禎:「5つの風景画」より

(館野泉&ヤンネ館野に捧ぐ/「館野泉左手の文庫」助成作品)

《串木野さのき》による

山川町利永《琉球人踊》による

「5つの風景画」は、館野泉さんとヤンネ館野さんからの委嘱を受けて作曲。鹿児島に伝わる5つの民謡を素材としながら、ヴァイオリンと左手のピアノによって多彩な光景と豊かな情趣が織り綴られていきます。特に意識したのは、民謡の旋律や節回しを十分に活かしながら、様々な時代や地域の表現を等価的に取り込んでいくこと。伝統と同時代性を踏まえた音楽が立ち現れていくことを願いつつ作曲しました。2019年6月「館野泉・ヤンネ館野 デュオ・リサイタル」(東京)で「《串木野さのき》による」が初演。全曲初演は2022年4月。(久保 禎)

「5つの風景画」は、《串木野さのき》による、《鹿児島ハンヤ節》による、山川町利永《琉球人踊》による、《鹿児島おはら節》による、根占町《木遣歌》による、の5つの組曲。本日はその中から2曲が演奏されます。

J.S.バッハ(光永浩一郎 編):G線上のアリア

J.マスネ(光永浩一郎 編):タイスの瞑想曲

G.フォーレ(光永浩一郎 編):夢のあとに

バッハは、宗教音楽を始めオルガン曲、協奏曲、管弦楽曲他、数多くの作品に偉大な業績を残した。32歳から5年間ほどケーテンの宮廷楽長をしていた頃に、管弦楽組曲を4つ書いた。G線上のアリアは、「管弦楽組曲第3番」の第2曲目のアリアが原曲である。この旋律の美しさに魅せられたドイツの名ヴァイオリニスト、ウィルヘルミが、ヴァイオリンのG線(一番低音の弦)だけで弾けるように編曲したもので、広く親しまれるようになった。

タイスの瞑想曲は、「マノン」と並ぶマスネの代表的なオペラ「タイス」の第2幕第1場と第2場のあいだで演奏される間奏曲。原曲はオーケストラ曲だが、旋律があまりにも抒情的で美しいため、ヴァイオリン独奏用に編曲され、ヴァイオリンの小品として人気を博している。

近代フランスの作曲家フォーレは100曲を超える歌曲を残した。夢のあとにの美しいメロディは、チェロやヴァイオリンの編曲でも親しまれているポピュラーな一曲。「君の姿が誘う眠りの中に燃える幸せを夢見た」と歌い出される詩は、トスカーナ地方の愛の歌を、パリ音楽院声楽科の教授だったピュッシューヌが翻案したもの。作曲当時フォーレは、婚約解消による失意のどん底にあり、その彼を心から慰めたのがピュッシューヌだったという。フォーレの音楽の本質である純粋な内面性がたたえられている。いずれも館野泉の左手のために光永浩一郎が編曲している。



谷川賢作:「スケッチ・オブ・ジャズ2」より

(館野泉&ヤンネ館野に捧ぐ/「館野泉左手の文庫」助成作品)

ア・ソング・アフター・ダーク

レイジー・スーザンズ・ワルツ

オールド・グランパズ・シンプル・ジョーク

館野さんから「スケッチ・オブ・ジャズ2」の委嘱を頂いたのは09年の9月18日。熊本県立劇場でのコンサートが終わり、終演後にバーで一杯やっている時のことだった。もちろんうれしかったのだが、前作「スケッチ・オブ・ジャズ」左手ピアノのため)でも十分に館野さんを喜ばせ(至るところに新鮮な驚き)悩ませ(なんと滅茶苦茶な指使いをさせるのだ)してしまったので、さて一体こんどはどのように自分が書き手として喜ばせ悩ませられるのか、身構えてしまった。しかもこんどはヤンネさんのヴァイオリンとのデュオということ。ヤンネさんも、もちろんジャズのプレイヤーではない。冒険と遠慮。ジャズフレーズの醍醐味とリズムのニュアンスの伝えかたのむずかしさ、、、う〜ん、どうすれば、、、悩んでいてもはじまらない。どんどん書いてしまったのだが、どきどきしてしまう。わくわくと喜ばせる場面が多々あり、悩ませてしまう部分をふきとばしてしまうといいな、と生来の楽天家の私はつい思ってしまうのだが。

ア・ソング・アフター・ダーク(マル・ウォルドロンに)は、カズオ・イシグロの小説『わたしを離さないで』に出てくるアルバム「夜に聞く歌」を聴きたくて探しまわった末に、作者の想像の産物だとわかったその架空のアルバムのイメージから音が立ち上がってきました。誰もがいつかは味わう夜の孤独。日本を愛してやまず、全国津々浦々巡演されていた、マルさんの面影に捧げます。「レイジースーザン」とは、中華料理店の円卓の上にある、回転する料理テーブルのことで。一体誰が名付けたんだろう。でもあれって、なかなか人とタイミング合わせるのが、むずかしいですよね?自分の食欲と、人への気遣いのせめぎあい。音楽のアンサンブルにも通ずるところがあるぞ。ふふふ。回転=ワルツの単純頭の私。ピアノの左手とヴァイオリンがステージ上をくると回り踊ります。ジャズワルツの名手チックに捧げます。“ジャズ”という音楽は、リズムの上ののっかったソロ演奏のリレーによって成り立っている。華麗な(でなくともよいのだけど)フレーズの応酬。が、そんなことには目もくれず、ただひたすら四分音符をカッティングする、カウント・ベイシー楽団のギタリスト。Mr.フレディ・グリーン。バラードだろうが、どんな速い4ビートだろうが、ただひたすらリズムを刻む。しかも、フル・バンドなのにアンプを通さない生音なのです!なのに良く聞こえるし、バンドを活性化させている。フレディさんの他愛ない冗談をきいてみたかったなあ。オールド・グランパズ・シンプル・ジョークは、自他共に認める「ミスター・リズム」フレディに捧げます。全曲初演は2013年。(谷川賢作)

「スケッチ・オブ・ジャズ2」は、アンリーズナブル・パッション(ガト・バルビエリに)、レイジー・スーザンズ・ワルツ(チック・コリアに)、ア・ソング・アフター・ダーク(マル・ウォルドロンに)、オールド・グランパズ・シンプル・ジョーク(フレディ・グリーンに)、エンドレス・エクスキューズ(マッコイ・タイナーに)、の5つの組曲。本日はその中から3曲が演奏されます。



千住真理子(ヴァイオリン) Mariko Senju, Violin

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。パガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。2020年はデビュー45周年を迎えた。2022年9月、新譜「ポエジー」リリース。コンサート活動以外にも、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍。また、チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。著書は「聞いて、ヴァイオリンの詩」(時事通信社、文藝春秋社文春文庫)母との共著「母と娘の協奏曲」(時事通信社)「千住家、母娘の往復書簡」(文藝春秋社文春文庫)など多数。

オフィシャル・ホームページ <https://marikosenju.com/>

館野 泉(ピアノ) Izumi Tateno, Piano

クラシック界のレジェンド。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ、不動の地位を築いた。2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。尽きることのない情熱を、一層音楽の探求に傾け、独自のジャンルを切り開いた。これまでに“館野泉の左手”のために捧げられた作品は、10ヶ国の作曲家により、100曲にも及ぶ。2020年、演奏生活60周年を迎えて開催した記念リサイタルは各地にて大反響をよぶ。もはや「左手」のことわりなど必要ない、身体を超える境地に至った「真の巨匠」の風格は、揺るぎない信念とひたむきな姿がもたらす、最大の魅力である。86歳のバースデー・コンサートは12月11日(日)東京文化会館(小)にて開催予定。

オフィシャル・ホームページ <https://www.izumi-tateno.com/>

次回

アフタヌーン・コンサート・シリーズ 2022-2023



森麻季&錦織健 デュオ・リサイタル

アメイジング・ソングス ~愛と煌めきを歌にのせて~

2023年1月24日(日) 13:30開演

森麻季(ソプラノ)、錦織健(テノール)、山岸茂人(ピアノ)

全席指定: ¥6,500 [シニア券: ¥5,800]

好評発売中!



会場: 東京オペラシティ コンサートホール

お問い合わせ: ジャパン・アーツびあ
0570-00-1212 www.japanarts.co.jp/